



ハウスガードコンテスト

2023



主催：株式会社コシイプレータービング

目次

01	目次・ハウスガードコンテスト審査総評
02	応募要領
03	審査員紹介
05	最優秀賞 追分の平屋(大府市)
09	優秀賞 ふたりの思いを具現化した家(交野市)
13	特別賞 動線良く快適に暮らすために(泉南郡)
16	審査員特別賞 森に寄り添う家(川越市)

ハウスガードコンテスト 審査総評

応募いただいた16作品全てにおいて、非常にレベルが高く、難しい審査でした。前回と異なる点として、矩計図をはじめとした、設計図書が全て揃えていただき全て同じ土俵の上で、審査を進める事が出来ました。

今回から新たな試みとして、2段階審査を取り入れています。一次審査として、応募書類をベースに、各性能の達成度を元に6作品を選びました。それらに対して、二次審査として、WEBでのヒヤリング審査を行いました。その結果、書類だけではなかなかわからない作品が出来るまでの背景、経緯、応募者の中でアピールしたい部分等を細かくヒヤリングすることができ、より精度の高い審査が出来たと感じております。

審査にあたっては「永く・安心安全・快適な家」を第一の評価基準としております。

そのうち「永く」は劣化対策、メンテナンスのしやすさ、これを重視しております。

「安心安全」は耐震性、耐風性を中心とした、構造的安全性をチェックをしました。

「快適性」という面では、省エネ性能を評価しております。

最終的には、個別の性能の共に、ヒヤリング結果や図面から読み取れる限りの住宅の基本的な性能、生活動線の効率性、日常安全性、光環境性能、意匠性を含めて、総合的に審査しました。

入賞した作品以外にも、個別性能が非常に高い、デザイン性が非常に高い、作品もありました。審査基準が異なっていれば受賞した作品もあったと思います。

令和4年11月
ハウスガードコンテスト委員会
委員長 中島 正夫



募集要項

審査委員会	委員長 中島 正夫 委員 古久保 英嗣 委員 中川 貴文 委員 齋藤 宏昭 委員 平野 陽子 委員 大村 充	関東学院大学 名誉教授 公益財団法人日本住宅・木材技術センター 理事長 京都大学 生存圏研究所 准教授 足利大学 教授 北海道大学 教授 有限会社 大村充企劃設計室 代表取締役
目的・テーマ	「永く・安心安全・快適に住み続けられる家づくり」 日本の気候風土に適した、国産材で長期の耐久性を有し、耐震性、快適性及び、メンテナンス性に優れた住宅づくりを促進し、今後のカーボンニュートラル、SDGsへの取り組みの模範となる住宅を増加させると共に、住まい手の幸福度の高い家づくりを促進させる。	
審査基準	(1)住宅性能 耐久性 ・・・ 構造材(1F以外)、屋根材、金物類、透湿防水シート、ルーフィング、外壁シーリング剤等、耐久性を意識した材料、施工方法 耐震性能 ・・・ 耐震等級、免振・制振対策 耐風性能 ・・・ 耐風等級 省エネ性能 ・・・ Ua値、C値(基準値設定)、日射遮蔽、通風等 (2)メンテナンスに配慮した設計 メンテプログラム(アフターメンテナンス計画の提示) (3)カーボンニュートラルへの配慮 国産材利用率(住宅本体に利用している木材すべて対象) 環境配慮型商品の採用(利用商品のリストUP) (4)独創性・デザイン性 木製品(国産材)を室内外に利用 オリジナルの材料、仕様	
参加資格	ハウスガードシステム採用工務店及び関係設計事務所	
応募要領	・応募締切日より逆算して、完工日が3年未満の物件 ・ハウスガードシステムを採用している物件 ・一般住宅、非住宅・モデルハウスでも応募可能 ・専用の応募用紙(A3)に必要事項記載の上、応募 (提出物:応募用紙・建物平面図・立面図・矩計図)	
応募締切	令和4年7月31日	
主催	株式会社コシイプレザービング	



審査員紹介

中島 正夫
関東学院大学名誉教授
博士（工学）、一級建築士

現在についている主な公職
公益財団法人日本住宅木材技術センター理事
国土交通省基準整備事業委員長
建築士会連合会資格講習委員会委員長

主な著書・共著所
「中大規模木造建築物の耐久設計と維持保全」（森北出版）
「木造住宅の耐久設計と維持管理・劣化診断」
（日本住宅・木材技術センター）
「集材材建築物設計の手引き」（大成出版）など

2023年公益社団法人日本木材保存協会会長受賞



古久保 英嗣
公益社団法人
日本住宅・木材技術センター理事長

東京大学卒業後、林野庁へ入庁。
2016年農林水産省退職。
2016年から現職である公益財団法人
日本住宅・木材技術センター理事長に就任

現在の兼職等状況
一般社団法人 木材表示推進協議会 理事・副会長
一般財団法人 日本建築センター 評議員
公益財団法人 日本木材加工技術協会 理事
一般財団法人 林業経済研究所 理事
一般財団法人 ベターリビング 理事
一般財団法人 住宅保証支援機構 理事
一般社団法人 日本林業協会 理事



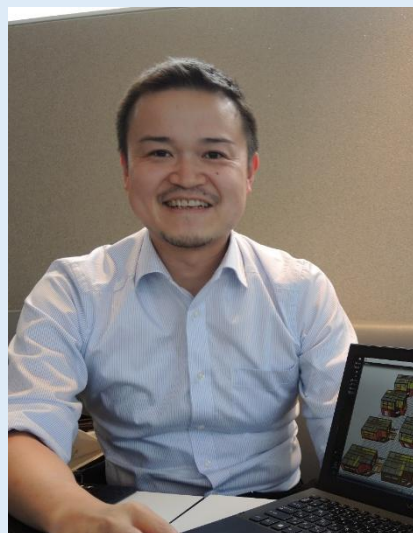
中川 貴文
京都大学准教授 博士（工学、農学）
専門は木質構造、数値解析

東京大学卒業。
2005年より国土交通省国土技術政策総合研究所及び
建築研究所にて木造の耐震の研究に従事。

2010年「wallstat」の無償公開を開始。

2018年より現職。2019年文部科学大臣表彰。

将来起こりうる巨大地震の際の建築物の倒壊防止・被害軽減を目的として、木造住宅・木質構造建築物の耐震の研究、耐震化推進に資する教育・普及活動を行っています。



齋藤 宏昭

足利大学工学部

創生工学科建築・土木分野教授 博士（工学）

専門分野：建築環境工学

東京大学卒業。

建材試験センター、カナダ天然資源省、独立行政法人建築研究所を経て、2012年に現職である足利大学工学部建築・土木分野に着任。

専門は建築環境工学で、木造の断熱外皮の熱水分性状を主な研究テーマとして活動中。

近年は、木材の劣化環境について研究を行っており、外壁内の水分蓄積から木部が普及に至る現象の解明に取り組んでいます。



平野 陽子

北海道大学 大学院工学系研究院

建築都市部門 空間デザイン分野 教授

博士（農学）

東京大学卒業。

2000年より株式会社ドットコーポレーション代表取締役

建築における木材利用を主な研究テーマとして活動中。行政側・研究所に対する建築コンサルを行っています。

木材利用として、建築で山側・川中・川下まで分野ごとに支店の広さを持ち、生産体制システム、工場の教育を行っています。



大村 充

有限会社 大村充企劃設計室

代表取締役

木造住宅の耐久設計、温熱設計、オフグリッド設計が主な範囲で、工務店の業務改善や、性能向上、クレーム処理などに携わりました。

外壁通気層にかかわる共同研究を大学と行いました。

株式会社コシイプレーザリングと20年にわたる顧問契約を継続中。



最優秀賞

追分の家

設計:オーパススタイル株式会社

施工:オーパススタイル株式会社

大府市



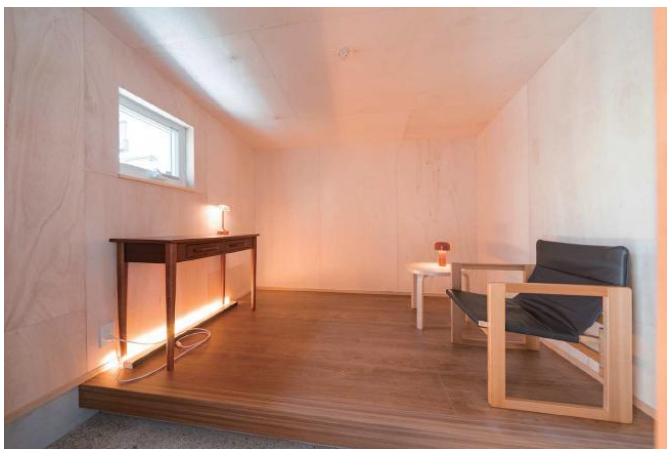
築100年ほどのご実家を取り壊し、新築を計画しました。解体前にご実家を見ると古材(梁)の状態もよく、新居の計画に一部採用できないかと検討しました。立地として住宅地の平坦な土地で役150坪ほどの広い土地になるので、平屋計画にしそれぞれの部屋から庭を楽しめる計画にしました。LDKは勾配天井空間にし高さを活かした開放的なスペースにし窓際にステップを設けることで、座れる間を作り庭との距離感を縮める事も考えました。古材(梁)も見せ梁として配置して時代を引き継ぐシンボルとして計画しました。

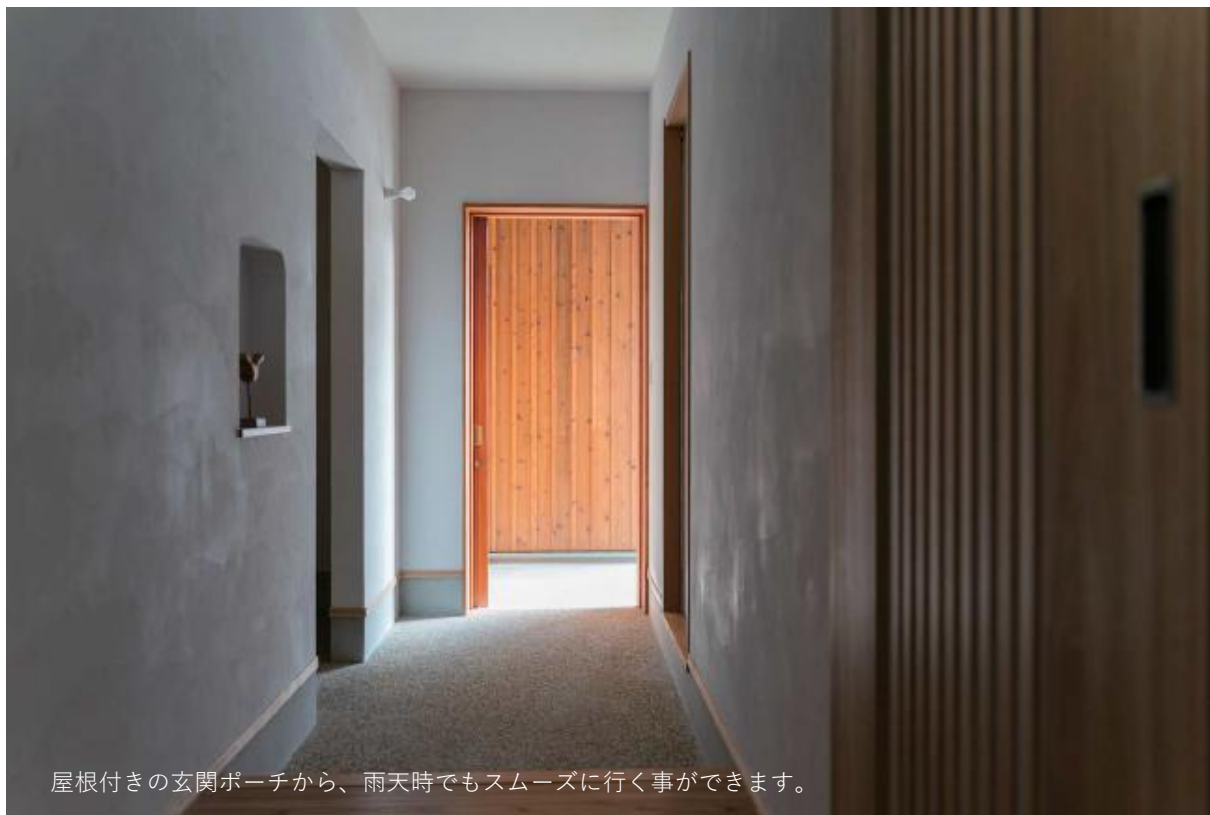




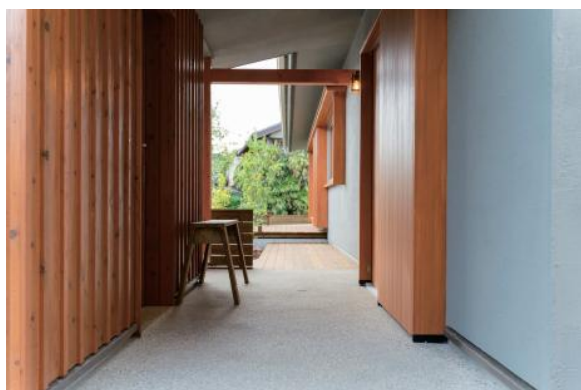
暮らしの提案として日中にカーテンを閉めなくてもいいように、植栽を窓から見える位置に配置し、メインの窓には目隠しルーバーの扉を設ける事で視線をカットしながらも庭を楽しめるようにしました。またご主人の趣味部屋は『はなれ』にする事で特別な空間で楽しめるように計画しました。

断熱等級はHEAT20 G2(6地域)を上回る性能になります。





屋根付きの玄関ポーチから、雨天時でもスムーズに行く事ができます。



内装壁の仕上げを漆喰と珪藻土の混合材で仕上げ、調湿機能と経年変化を楽しめる材料を採用。

外壁の板貼り、ウッドデッキは耐久処理杉材を採用。

一部天井を板貼りにする事で、気の香りや調湿・自然素材の温かみを感じられる落ち着いた空間にしています。





審査員コメント

各種性能がバランスよく、高いレベルで達成されていました。解体前に使われていた古材を上手く建物の記憶を残す形で有効利用されており、再利用というのがポイントになる中で、耐久性についても、窓の上にも庇がついて、軒もしっかり出てますし、色々配慮されている点が評価されました。

その中で、デザインもすっきりしており、「上手い」と思いました。平面がかなり広く、暗くなるかと思いましたが、天窓がついていたり、風通りにについても考えられているところも評価されました。離れで屋根が連続し、勾配が変わる部分がありましたが、技術力の高い収まりを採用しており、審査員全員の高い評価を得られました。

敷地面積：449.17㎡

建築面積：150.72㎡

延床面積：134.99㎡

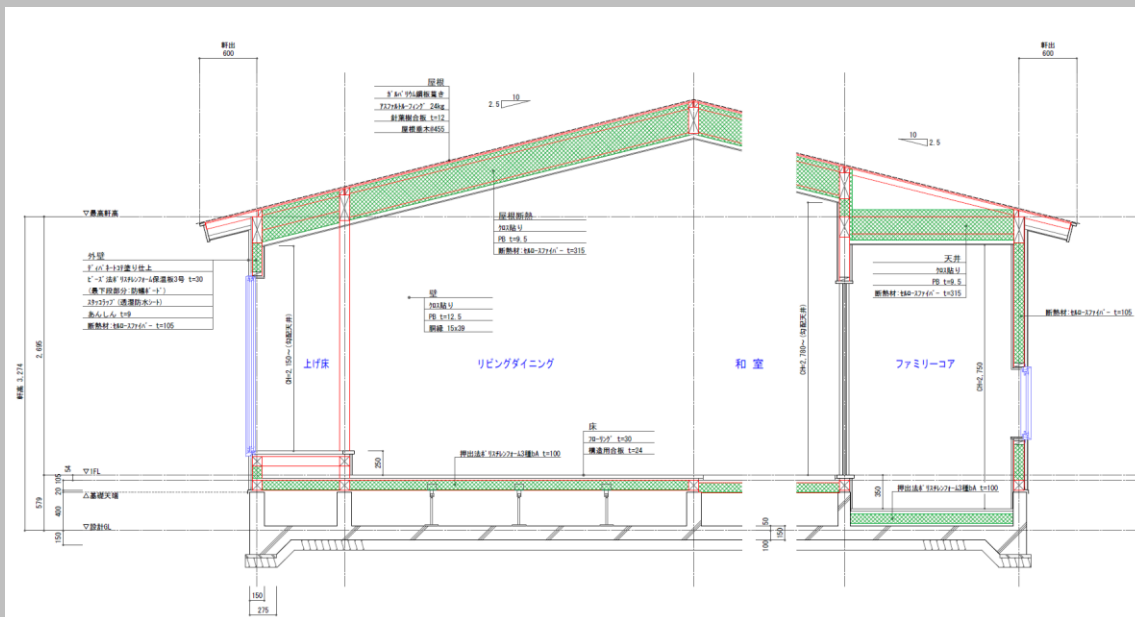
耐震等級：耐震等級3

耐風等級：耐風等級1

断熱性能：UA値0.36/ηA値1.7

気密性能：C値0.8

竣工年月：令和4年4月





夫婦二人の住まいで、立地は北側道路、東西に戸建て住宅が建っておりますが南面には自然豊かな池があり、池の背景には山も見え、四季を感じる事が出来る敷地となっております。

設計に際しては、南側の池があるオープンスペース側に、軒を大きくし日射遮蔽と日射取得に配慮しつつ窓を大きくとり、どこからでも池や山々が見えるよう居室を配置し、LDKに面してウッドデッキを設け、外と中の境界をやわらかくつなげ室内にしながら自然を感じる事ができるよう配慮いたしました。





構造につきましては建物のシルエットがすっきりなるよう2.5寸平屋建、長方形のシンプルな形状とし、耐震等級3を取得し、屋根及び外壁は付加断熱を施工し通気層の確保もおこない、仕上げにガルバリウム鋼板を採用し耐久性、メンテナンス性、耐震性、断熱性に考慮しました。空調計画はエアコンを廊下に面した解放されたウォークインクローゼットに一台配置し、給気口はエアコン下に配置し外気を取り入れ、エアコンにて空調しEAを各居室に配置し空調した空気を各部室に行きわたらせ、エアコン一台で家中快適となるよう計画しております。換気計画はイニシャルコスト、メンテナンス性を考慮し第3種換気を採用いたしました。



LDK部分の畳コーナーの内装壁の仕上げはシナ合板とし、LDKの雰囲気や壊すことなく和室の雰囲気も大事にするようにシナ合板を採用いたしました。



洗面化粧台、ランドリースペース、廊下収納部分、テレビボードと一体となったリビングからウッドデッキに出る小上りには木材を採用し天然塗料にて塗装しております。





外部ウッドデッキはラグウッド（防腐材）を加圧注入した木材を使用しております。



隣接建物がある北面、西面には一切窓は設けず、プライバシーと断熱性を確保しております。



内部は防音性も期待し、ロックウールの吹込み工法です。また、夏型結露を考慮し、室内側に可変調湿気密シートを。



災害時、防災蓄雨を考慮し雨水タンク（レインハーベスト）を設置しております。

特別賞

動線良く、
快適に暮らす為に

設計:ナガタ二建設株式会社

施工:ナガタ二建設株式会社

泉南郡



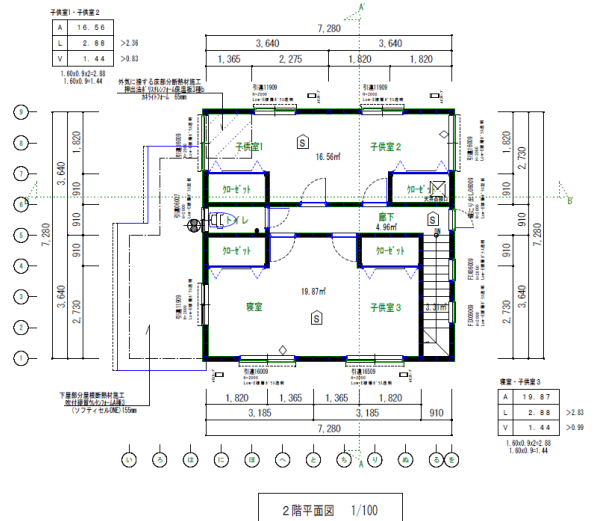
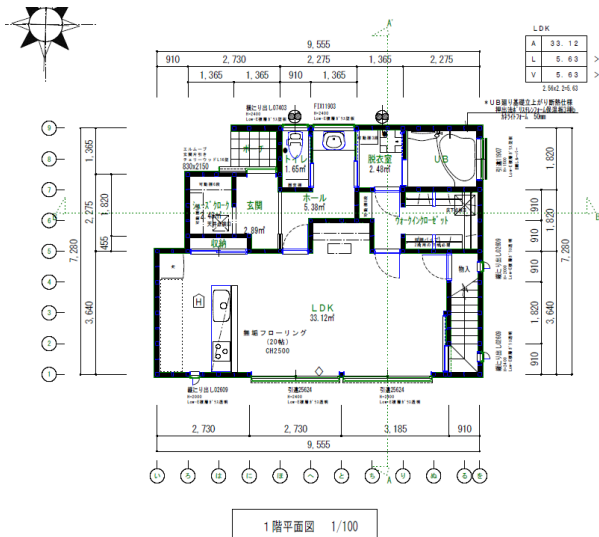


広い敷地を有効活用する為、建物の配置から検討しました。太陽光が良く当たる南側の庭を広く取り、開口の大きい掃出し窓を2カ所設置することで開放感と採光、そして近い将来ウッドデッキの設置も検討されているようで、部屋の内外で有効活用出来るような間取りになっております。

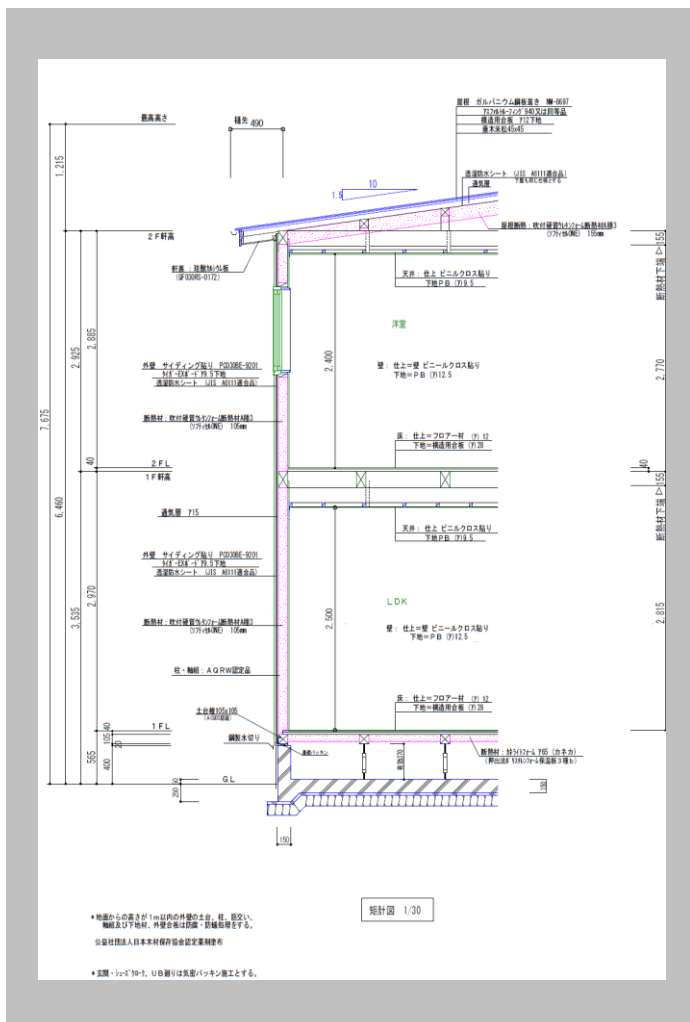
構造は片流れ1.5寸勾配、正方形に近い建物の形状、ベランダ無しにしております。屋根はガルバリウム鋼板、外壁はシーリングレスサイディングを採用し、耐久性能向上とメンテナンスコスト削減を図りました。

・建物の隙間を出来る限りなくしてC値の向上に努めました1階LDKは足触りのより浮造り仕上げの無垢フローリングを施工しました。





家族構成はご夫婦2人、子供は1人+お腹に2人で合計4人将来5人家族になるかもしれないということで、2階は現状2部屋ですが、4部屋に分けることが出来るようにドアは2カ所配置・下地等も先に仕込んでおります。より良い快適な暮らしを目指し、設計しました。



敷地面積：215.89㎡
 建築面積：64.38㎡
 延床面積：115.51㎡
 耐震等級：耐震等級3
 耐風等級：耐風等級2
 断熱性能：UA値0.67/ηA値1.7
 気密性能：C値0.24
 竣工年月：令和4年5月

審査員コメント

小規模ながら、低コストで非常にバランス良い各種性能を実現している点が評価されました。その上で維持保全についても、非常に高い配慮がされている点についても、高く評価されました。

設計:株式会社伊藤木材建設

施工:株式会社伊藤木材建設

森に寄り添う家

審査員特別賞

川越市



40代のご夫婦と小学生のお子さま3人で住まう家です。立地は、川越市の市民の森が南側にあり、北側は閑静な住宅街になります。敷地北側が、道路で、旗竿地になっています。

お客様は東京のマンションにお住まいでしたが、コロナを機に空氣がきれいな中で田舎に移り住み、子供を育てたいという想いで、栃木県や茨城県も検討されたのですが、南側が森という理想の土地が埼玉県で見つかったので、決めたそうです。

設計に関しては、北側の住宅街と南側の森を建物で遮るように横幅が広い建物にしました。

これにより、自分達だけの森を「森に寄り添う家」ができました。





また、旗竿地で一番奥にある敷地なので、建物で目隠しをすることで南側のスペースは誰にも見られない家族だけのプライベートな庭にもなっています。また建物には、大きな窓を南側に多く設置することで、窓がウィンドウピクチャーのごとく、絵画のような風景を楽しめます。また、吹抜けをつくることにより、森で遮られている、太陽を2階から取り込む事ができ、冬でも日射取得をできるよう設計しています。



室内床は全面に無垢オークのフローリング、玄関正面の洗面台にパーティションとして、無垢オークを用いました。トイレや洗面脱衣室の室内壁面仕上げを珪藻土仕上げることで、調湿効果を期待でき、居心地よい空間としています。



敷地面積：348.33㎡

建築面積：66.36㎡

延床面積：109.41㎡

耐震等級：耐震等級3

耐風等級：耐風等級2

断熱性能：UA値0.51/ηA値2.4

気密性能：C値0.4

竣工年月：令和5年9月

審査員コメント

旗竿地という特異な形状の土地を上手く利用し、南に広がる森を建物内に上手く取り込む配置計画や、壁を後退させて、雨水の影響を避けつつ、耐久性、メンテナンス性を確保しており、耐久性、メンテナンス性を確保している点が評価されました。

特に南面はすごく配慮されているのを感じました。「美術館のような家」というお施主さんの思いも反映されており、デザインコンセプトも含めて、お客さんの要望の中ですごく工夫されてるっていうのが伝わってきましたし、設計全体として面白かったです。

